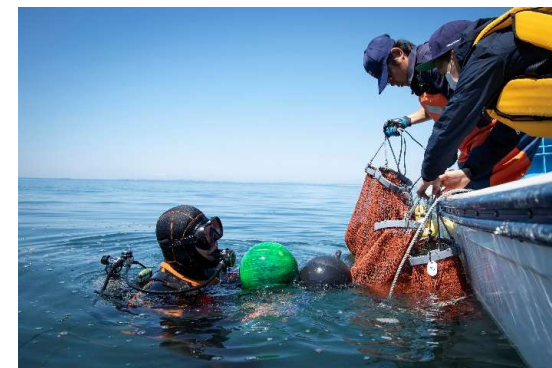


令和8年1月22日(木)

シンポジウム「海の力で未来を創る:ブルーカーボン最前線」
～海洋生態系を活かす気候政策、ブルーカーボンの可能性と課題～

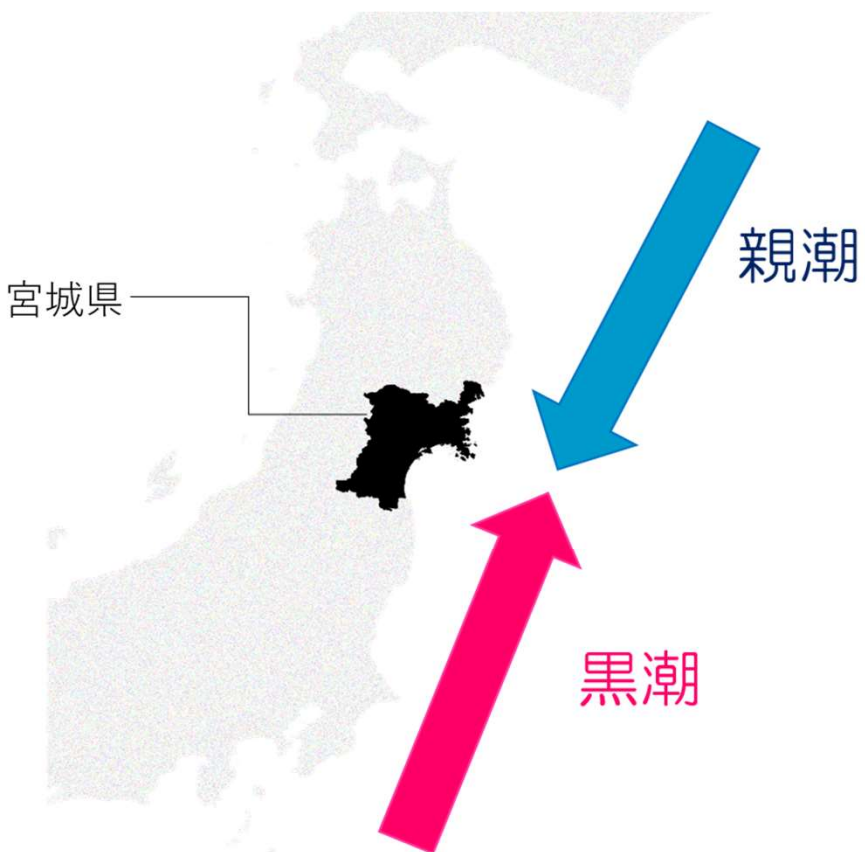


環境と調和した持続可能で活力ある水産業の確立に向けて 宮城県が取り組むブルーカーボンプロジェクト

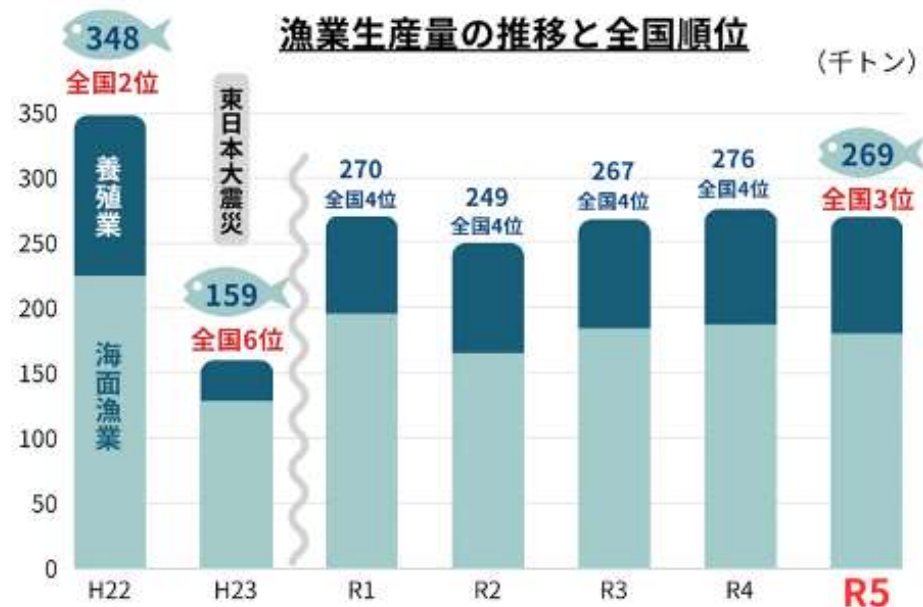


宮城県水産業基盤整備課

宮城県のご紹介



- 宮城県の沖合は、北から流れてくる冷たい親潮と南から流れてくる暖かい黒潮がぶつかる海域
→“潮目”が形成される豊かな漁場

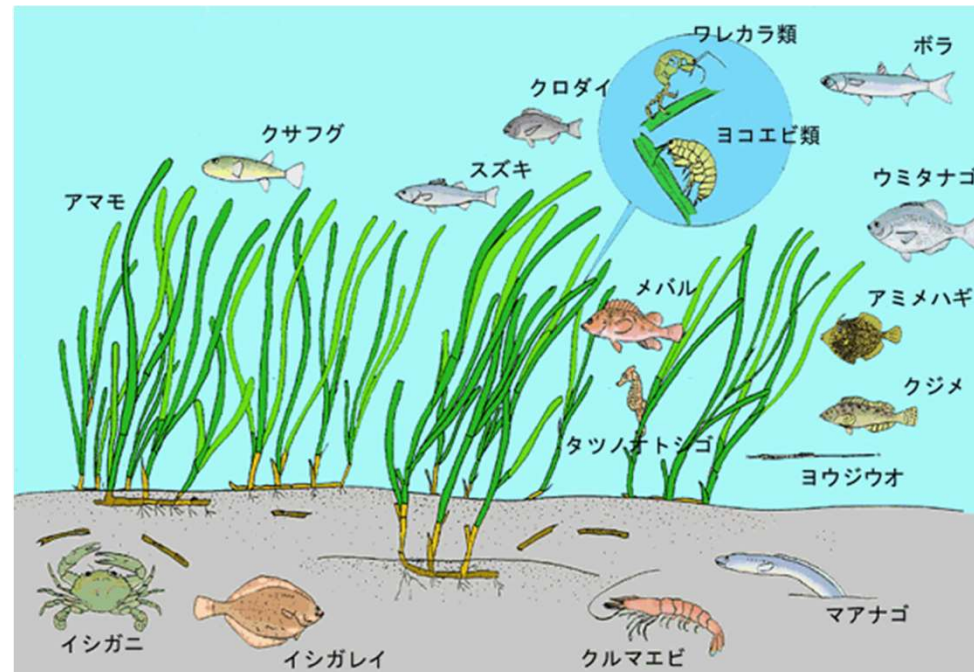


← 令和6年みやぎ海とさかなの県民条例年次報告より



ブルーカーボンを生み出す藻場とは

- 海の中で海藻(草)が森のように茂っている場所のこと
- 海藻(草)の茂みが穏やかな流れの環境を作るため様々な生物の餌場や稚魚の隠れ家、産卵場として利用され、豊かな漁場の形成と生物多様性の維持に寄与



せとうちネット 瀬戸内海的环境保全と創造をめざして HPより

近年は藻場の新たな機能として...地球温暖化対策に貢献する「ブルーカーボン」が注目されている

水産部局でブルーカーボンに取り組む理由

他県では、環境部局がカーボンニュートラルの一環としてブルーカーボンに取り組む事例もある
(ひょうご豊かな海づくり県民会議様・三河湾ブルーカーボン推進事業など)

一方で...

- ブルーカーボンが注目される前から漁業者はウニやアワビの餌場となる藻場の造成等を実施
- 藻場は「海のゆりかご」と呼ばれており、水産資源の生産基盤となっている

カーボンニュートラルに取り組む流れの中で

➡ 水産業が地球温暖化対策に貢献をしているという「**新たな価値**」
分野や立場を問わず藻場造成の仲間づくりを進める

➡ 更なる藻場造成・水産資源の増加

➡➡ 環境と調和した持続可能で活力ある水産業を確立

宮城ブルーカーボンプロジェクトについて

宮城県ブルーカーボン協議会

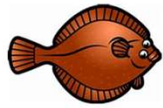
構成員：行政、専門家、市町、広報、業界等
役割：方向性の検討、進捗管理、結果の検証



海藻のCO₂固定量を算定

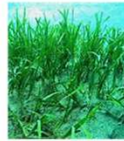


藻場の造成、磯焼け対策、ウニ駆除・有効利用



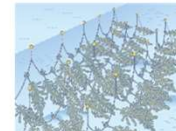
3つの柱

技術開発
試験研究



アマモ場

モデル地区
での実践



ワカメ養殖

普及指導
広報



普及・広報活動

社会実装

ブルーカーボン情報の公開
CO₂「見える化」

- CO₂固定・排出原単位データの公開
- 取得したクレジット認証の算出過程を公開
- 藻場造成の取組等の情報発信



カーボンのクレジット制度
と異業種連携

- カーボンのクレジット制度の導入
- ブルーカーボンの実践による生産物の高付加価値化
- 異業種へのPR



観光産業との連携
ブルーツーリズム

- 体験型教育プログラムの構築
(海藻種苗の栽培や、フィールドでの移植体験など)



宮城県内のブルーカーボン量の算定

CO₂の算定手法(計算式)

活動量
(生産・増産量)

×

原単位
(吸収・排出係数)

=

CO₂量
(吸収量・排出量)

令和5年度集計

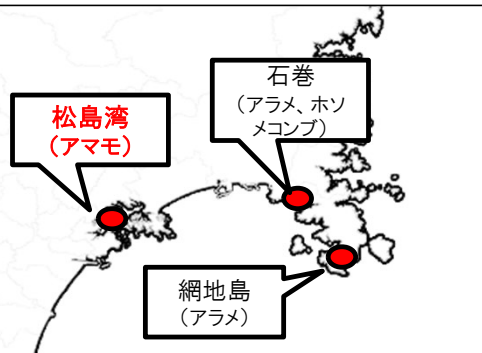
区 分	活動量 (生産・増産量)	使用した原単位	CO ₂ 固定量
ワカメ養殖	25,525 t	0.0073t-CO ₂ / t	186.3 t
コンブ養殖	124 t	0.042t-CO ₂ / t	5.2 t
海藻藻場造成	6.9ha	4.2t-CO ₂ /ha	29.0 t
海草藻場造成	1.0ha	4.9t-CO ₂ /ha	4.9 t
		合計	225.4 t

プロジェクト開始以降集計

年度	実績	目標
R3	208.7	250
R4	223.6	250
R5	225.4	250
R6	※集計中	250

令和3年度以降、ブルーカーボン量の目標値は未達(高水温によるコンブ生産量の減のため)
→藻場造成海域の拡大などにより目標達成を目指していきたい

モデル地区における藻場造成活動の実践①



活動団体① : 松島湾アマモ場再生会議



- 松島湾内におけるアマモの藻場造成活動
- 地域の住民とともに、震災で失われた松島湾内のアマモ場の復活を目指す。

未成熟な種子

種子を海に漬けて成熟

造成用マットの作成

造成用マットの設置

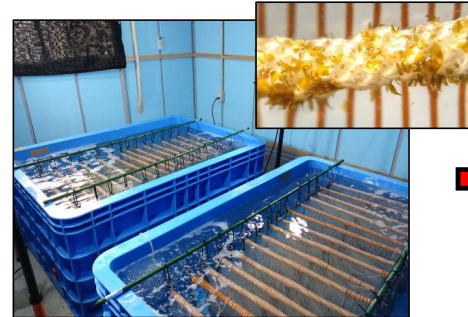
種子の収集

種子の選別

種子を埋め込んだ粘土

モデル地区における藻場造成活動の実践②

海藻の人工採苗と育成方法



陸上で海藻の種をとり、
水槽で育てる



ある程度の大きさになった
海藻を海に設置



これが「核藻場」となり、周囲に海
藻の種を飛ばして藻場が増える
ことを期待

活動団体② : 宮城県漁業協同組合石巻地区支所 (ISOP)

- 石巻市佐須浜におけるアラメやホソメコンブの藻場造成活動
- 漁業者やダイバーらが、減ってしまった藻場の保護と拡大を実施している。



活動団体③ : 宮城県漁業協同組合網地島支所

- 石巻市網地島におけるアラメの藻場造成活動
- 漁業者や地元住民が藻場の保護や拡大を実施している。

普及指導広報



企業の方々に藻場造成の現場を知っていただくためのモニターツアー
令和7年9月30日@石巻市網地島で実施、募集枠10名に対し県内から11名の応募あり



宮城県ブルーカーボンシンポジウム

- ・令和7年12月17日@仙台で開催
- ・対象：企業の担当者
- ・内容：基調講演のほかパネルディスカッション
名刺交換会を実施
- ・参加者数：160名程度が参加

Jブルークレジット認証の取得による藻場造成活動の促進

Jブルークレジットとは...

- ある取組によって生産されたブルーカーボン量を算定し、認証機関(ジャパンブルーエコノミー技術研究組合)の審査を経て発効されるカーボンクレジット

宮城ブルーカーボンプロジェクトの取組

ブルーカーボンの創出

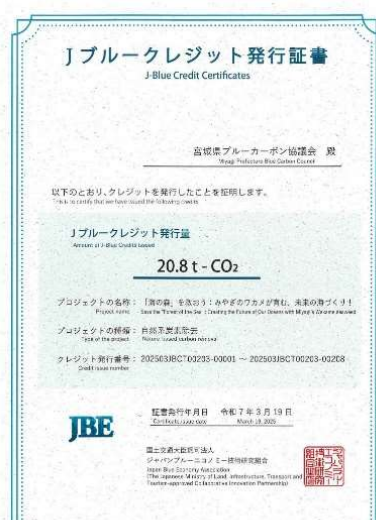
ブルーカーボン量の算定

Jブルークレジット®取得
...資金獲得

□ 漁業者のワカメ養殖



□ 漁業者による藻場造成



藻場造成面積の拡大や
養殖生産量の増大



令和7年3月に宮城ブルーカーボンプロジェクトとして初めて20.8tの
Jブルークレジット認証を取得！1月末まで販売中

最後に...

- 藻場を再生させることは、ウニやアワビなどの漁獲量回復だけではなく二酸化炭素の削減にもつながる。
- 日本全体でパリ協定に基づき、二酸化炭素の削減に取り組んできているが地球温暖化の原因となる二酸化炭素の削減には限りがあり、吸収源としてのブルーカーボンが重要。
- 業界の垣根を越えてブルーカーボンに取り組み、豊かな漁場と環境を守ることが必要。

“環境と調和した持続可能で活力ある水産業の確立”

